

一九九一年一月二十日(日)
朝鮮民族運動史研究会 第九十九回例会

義烈団から朝鮮民族戦線連盟へ・・・綱領に見る主張の変遷

鹿嶋節子

朝鮮民族戦線連盟は一九三七年十一月、中国関内における朝鮮人の抗日民族統一戦線の結成を目指して、南京でつくられた団体であったが、その加盟団体は、朝鮮民族革命党、朝鮮民族解放運動者同盟、朝鮮革命者連盟であり、それぞれの団体を代表する人物は、金元鳳、金星淑、柳子明であった。これら三人の人物は、一九二〇年代の初め活動とともにし、その後それぞれ中国関内で独自に朝鮮独立運動に関わった後、一九三〇年代後半に再びともに活動するようになった。朝鮮民族戦線連盟は、朝鮮民族革命党を中心として作られたのであるが、その内容を調べていくうちに、「民族統一戦線」という考え方は、朝鮮民族革命党ではなく、むしろ他の加盟団体の主張に色濃く現われているのではないかと気付いた。

そこで、金元鳳の関わった組織が朝鮮民族戦線連盟結成にいたるまでどのように主張を変えていったかを綱領や宣言文を中心にして検討し、金星淑や、柳子明の関わった組織についてもその主張を調べて「義烈団から朝鮮民族戦線連盟へ」の運動の流れをもう少し幅広く見てみたいと考えた。

義烈団は、一九一九年の結成から一九二〇年代前半までは「公約十条」や「朝鮮革命宣言」においても直接的暴力闘争を呼び掛けていた、しかし、一九二〇年代半ばに金元鳳らが黄埔軍官学校で学び、北伐への参加を経験することを経て政連盟の考え方も、この時期に出会った人々の思想と活動に補完的性格を強めるようになった。「義烈団綱領」や、「創立完

九周年ヲ記念シナカラ」では社会主義的な理念が強調され、また、統一的独立党の結成もうたわれている。

一九三五年に結成された朝鮮民族革命党の綱領は、「義烈団綱領」を踏襲しているが、より社会主義的性格を強めている。朝鮮民族戦線連盟の基本綱領は、他の団体との「統一戦線」を指向するためか社会主義的色彩は薄まってはいるが、基本的には朝鮮民族革命党の綱領の流れを受け継ぐものと考えてよい。

しかし、実践的な行動の方針である朝鮮民族戦線連盟綱領の内容は、朝鮮民族革命党の考え方よりも、柳子明の關係するいわゆる「無政府主義」団体、南華韓人青年連盟の機関紙の主張に近い。

中国内の朝鮮人無政府主義団体の綱領や、南華韓人青年連盟自体の綱領は、「自由連合」を主張し、「民族統一戦線」の考え方は見られないのであるが、一九三六年の南華韓人青年連盟の機関紙、「南華通訊」の記事では、民族戦線結成に関する論調が目につく。

また、金星淑の属する朝鮮民族解放運動者同盟についてはその主張を検討できる材料に乏しいのであるが、キム・サニム・ウエールズの「アリランの歌」の中に、この団体が抗日統一戦線を目指し、十五項目の綱領を掲げていたという記載がある。

このように見ていくと、朝鮮民族戦線連盟の結成に至るまでの過程で、義烈団・金元鳳には一九二〇年代前半に、思想にその後の活動を規定するような大きな転換があったことがわかり、また、「抗日民族統一戦線」という朝鮮民族戦線

在日朝鮮人運動史研究会第一二九回例会

(一九九一年一月一三日)

兵庫県における在日朝鮮人労働運動と全協

堀内 稔

兵庫県における在日朝鮮人労働運動史研究の一環として報告した。

日本労働組合全国協議会(全協)は、一九二八年三・一五の共産党弾圧後の日本労働組合評議会の解散を受け、一九二九年末につくられた半合法的性格の労働組合で、一産業一組織を単位とした全国的単一労働組合総連合を目指した。

兵庫県では、一九二九年一月に全協神戸地協準備会が結成され、新労働党の結成反対運動を軸にして組織を整えていくが、一九三〇年前半の共産党の武装化方針で全協員の検挙が相次ぎ、活動は停滞する。こうした全協再建のテコとなったのが、朝鮮人労働者の全協への参加である。

兵庫県の場合、朝鮮労働組合の解体宣言が出されたのは一九三〇年五月である。官憲資料では、一九三〇年前半の段階で「再組織運動特に進捗せるを認めず」とあるが、解散以前から全協と朝鮮労働組合は労働争議を共同で行うなど、「近い」関係にあり、それがベースとなって全協への再編が行われた。再建によって、自由労働組合尼崎支部、紡績労働組合鳴尾分会、日本化学労働組合兵庫支部の三つの組合が生まれた。しかしその人数は三組合合わせて九〇名足らずで、兵庫県朝鮮労働組合の四五〇名(一九二九年)には、はるかに及ばなかった。全協に再編されなかった朝鮮人は、阪神消費組合な

どより大衆的な組織に吸収されていったとみられる。

朝鮮人の多い化学では、ホテイ護謨、兵神ゴム、秋毎護謨製造所、高橋ゴム工業所および台湾製糖の五分会が組織され、さらに一九三一年六月には化学は二三分会に達した。

一方争議では、兵神ゴム、大正ゴム、湊川ゴム、染川ゴムなどの指導が行われた。一九三一年八月の弾圧で白南煥、全海健ら二二名が検挙されてその活動は一時弱まった。

一九三二年に入り、再びゴム工場の朝鮮人を新たなメンバーに加え、全協化学兵庫支部が再建され、活発な活動を開始した。一九三二年五月頃には浅山、玄好珍、李民善らが指導者となり、朝鮮人約六〇名がメンバーに加わり、大兵、興隆、豊源、平尾、藤本、三信、エスヤ、地球どの各ゴム工場に分会が設けられた。

その後弾圧はあいつぐが、組織は執拗に拡大され、同年一二月末には部員一〇名(うち朝鮮人九二名)となった。

一九三三年五月、金秉国、金太権は西部地区準備会を結成し、ゴム工場一三ヶ所に分会を結成した。西部地区のメンバーは金秉国、金太権のほか秋鳳守、金致述、康元範、金秉姫、金臺雲、白聖出、崔昌烈らであったが、同年一二月には金太権、金秉国が逮捕され、組織はつぶれた。

金太権らが逮捕されると、栄ゴム工場職工牧野、卜部ゴム工場の丁南寿、加藤ゴム工場の宋春花らが、当時紛争中であった藤原ゴム工場争議応援闘争を通じて再建を企図した。しかし、この再建組織も一九三四年二月九日にメンバー九名が検挙され、さらに四月中旬には残存勢力も検挙され、組織はまったく壊滅した。

新圖書案内

東史約上 [韓國史料叢書 第33卷]	國史編纂委員會	京畿道	同所	P 905
韓民族獨立運動史資料集 [8~10]	〃	〃	〃	1989年
中國正史朝鮮傳	〃	〃	〃	P511
韓國獨立運動史 義兵篇	〃	〃	〃	P550
尹致昊日記	〃	〃	〃	1989年
慶北史學 第12号	慶北史學會	大邱	同会	1989年
韓國文化研究 2	釜山大學校韓國文化研究所	釜山	同所	P493
東方學志 65号	延世大學校國學研究院	ソウル	同院	
南朝鮮十大産業	白 鳳南	延辺	延辺大學出版部	
장벽의 특사들	연변조선족자치주민정국	〃	연변민족출판사	
中国朝鮮族历史足迹 [3] 烽火	同編集委員會	北京	民族出版社	1989年
제2차 조선학국제학술포럼회로문집	中国北京大學朝鮮文化研究所	北京	民族出版社	
黒龙江朝鮮民族	徐 基述	黒龙江朝鮮民族出版社		
八、一五直後の南朝鮮の政治、經濟、文化状況	朴 慶植	東京	三一書房	
史學研究 第41號	韓國史學會	ソウル	民族文化社	
한민족독립운동사(56)	국자편찬위원회			
韓國史研究彙報 第69號	國史編纂委員會	京畿道	同会	1990年
韓國年曆大典	韓 甫植	慶北	嶺南大學校	
주체의 세계관	박 용근	東京	조선신보사	
주체사상에 대하여				
征韓論政策	姜 範錫	東京	サイマル出版社	
発展途上地域日本語文献目録 [1988]	アジア經濟研究所	東京	同所	
朝鮮後期郷史關係資料集成	嶺南大學民族文化研究所	慶北	同所	1990年
韓國說話의研究	金 和經	〃	〃	1987年
조선신보 (후쇄판) 1977年~1989年		東京	朝鮮新報社	
한민족의 공동체를 향하여	강원용	서울	계정리서출판사	
민주혁명운동과 통일전선	이정식	〃	사계절	
서재필	〃	〃	정음사	
한국을 사랑한 일본인 전도자	김수진 訳	〃	기독교문사	
在憲晦全集 [壹、貳、參、四、五]	韓國學文献研究所	ソウル	亜細亜文化社	
池錫永全集 [壹、貳、參]	〃	〃	〃	
俞辛奩全集	〃	〃	〃	
東學接主鄭容根全集 [上、中、下]	〃	〃	〃	
申 禧全集 [上、下]	〃	〃	〃	

シンポジウム 在日朝鮮人史研究の現段階 1990年 2月10日

一九九〇年にはノ・テウ大統領の訪日を契機として強制連行の問題がクローズアップされ、広く在日朝鮮人の歴史の掘り起こし作業の重要性が、改めて認識されることになりました。私たちの在日朝鮮人運動史研究会関西部会は、一九七九年に活動を開始し青丘文庫（神戸市須磨区）で毎月一回の研究会を続け、その成果を『在日朝鮮人史研究』に発表してきましたが、今回、関西部会の創立12周年と『在日朝鮮人史研究』の20号発行を記念してシンポジウムを開催することになりました。

在日朝鮮人運動史研究会関西部会の代表でもあり『朝鮮人強制連行の記録』（未來社）等を書かれている朴慶植先生の記念講演ののち、関西を中心とした各地域の在日朝鮮人史の概要および研究の現状と課題について報告を行います。このシンポジウムが在日朝鮮人史研究発展のためのひとつのステップとなり、これを機会にさらに研究交流の輪が広がることを願っています。

在日朝鮮人運動史研究会関西部会

△日時▽91年2月10日（日）午後一時～五時

△会場▽神戸学生青年センター・ホール

（阪急六甲下車、北東徒歩二分）

△参加費▽千円（資料代を含む）

△プログラム▽

●記念講演 「在日朝鮮人史研究の現代的意義」

歴史家 朴 慶植 氏

●各地域の在日朝鮮人史に関する報告

①兵庫県 会員 堀内 稔 氏

②大阪府 会員 金森 襄作 氏

③京都府 会員 水野 直樹 氏

④奈良県 解放出版社編集部 川瀬 俊二 氏

⑤香川県 四国学院大学助教授 佐野 通夫 氏

⑥岡山県 岡山大学教授 石田 米子 氏

⑦島根県 島根大学教授 内藤 正中 氏

△後援▽青丘文庫、神戸学生青年センター

むくげの会、兵庫朝鮮関係研究会

△主催▽在日朝鮮人運動史研究会関西部会

△連絡先▽神戸市灘区山田町三丁目一ー一

神戸学生青年センター内 飛田 雄一

電話（〇七八）八五一二七六〇

※ シンポジウム終了後、交流会を開きます。また、宿泊も可能ですので（二千五百円）希望の方はご連絡下さい。

研究会御案内

朝鮮民族運動史研究会 第100回例会
日 時 1991年2月17日〔日〕午後2時
テーマ 中国近代朝鮮運動の歩み
報告者 藤井 幸之助氏

日、韓在日キリスト教関係史研究会 第13回例会
日 時 1991年2月23日〔土〕午後2時
テーマ 「宋 昌根牧師について」
報告者 後藤 聡氏